

給付会計の理解

給付費用・給付債務

退職給付引当金・前払年金費用

給付会計＝事前費用化

問題をシンプルに考える

- ・退職金準備を単純に毎年費用化する
- ・退職金を支払うまで給付債務として累積する

問題を複雑にする

退職給付引当金・税効果会計
の考え方を一旦横において考える

現金での支払

(1)期首

現金	資本
1000	1000

当期給付費用100発生

給付費用100 | 納付債務100

※費用は資本を減少させる

(2)積立

現金 1000	給付債務100
	資本 900

退職金100支払

給付債務100 | 現金100

(3)退職時

現金	資本
900	900

年金での支払

(1)期首

現金	資本
1000	1000

※費用は資本を減少させる

(2)積立

年金資産100	給付債務100
現金 900	資本 900

当期給付費用100発生

給付費用 100 納付債務 100

当期年金掛金100拠出

年金資産 100 現金 100

(3)退職時

現金	資本
900	900

退職金100支払

給付債務100 年金資産100

退職給付引当金の導入

(1)年金資産が不足

現金 1000	給付引当金40
	資本960

年金資産<給付債務

年金資産60	給付債務100
給付引当金40	

(2)年金資産不足無し

年金資産100	給付債務100
現金 900	資本 900



給付会計の目的は本来在職従業員へ未払い退職金を債務として認識する事でした。その意味からは給付債務の計上と年金資産の計上は必要な事ですが、日本の退職給付会計では「年金資産を非計上」します。その為決算時に、年金資産額と同額の給付債務を相殺します。

年金資産・給付債務の振替

給付債務 60
給付債務 40

年金資産 60
給付引当金 40

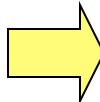
お互いに相殺

債務が引当金に名称変更

A. 拠出不足のケース

(1) 納付費用 100 発生

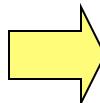
現金 1000	資本 1000
------------	------------



現金 1000	給付債務100
	資本 900

(2) 年金掛金 60 拠出

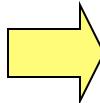
現金 1000	給付債務100
	資本 900



年金資産 60	給付債務100
現金 940	資本 900

(3) 納付引当金 40 計上

年金資産 60	給付債務100
現金 940	資本 900



簿外へ

年金資産 60	給付債務 60
現金 940	給付引当金40
	資本 900

B. 運用損のケース

(1) 納付費用 100 発生

現金 1000	資本 1000	→	現金 1000	給付債務 100
			資本 900	

(2) 年金掛金 100 捲出

現金 1000	給付債務 100	→	年金資産 100	給付債務 100
資本 900			現金 900	資本 900

(3) 期中運用損 40 発生

年金資産 60	給付債務 60	→	年金資産 60	給付債務 60
給付債務 40			現金 900	給付引当金 40
現金 900	資本 860		資本 860	

簿外へ

十分な年金掛金を捲出しても期中に運用損を出した場合には決算時に資本の減少と給付債務の計上をしなければならない。